

国境を越えて結びつくヨーロッパ

広島大学附属福山高等学校 和田文雄

1. はじめに

ヨーロッパ中央部は、地誌学習の事例としてよく取り上げられる。それは、この地域が国家間の地域統合の地理的背景や要因について、他地域に転移する重要な学習内容を包含しているからである。

ここでは、『新詳高等地図』p.44～46「ヨーロッパ要部」(図1)を主要教材とし、「生徒による探究」の指導を視野に入れた地理B「州・大陸規模の地域の調査」の事前学習としての学習内容を提案する。

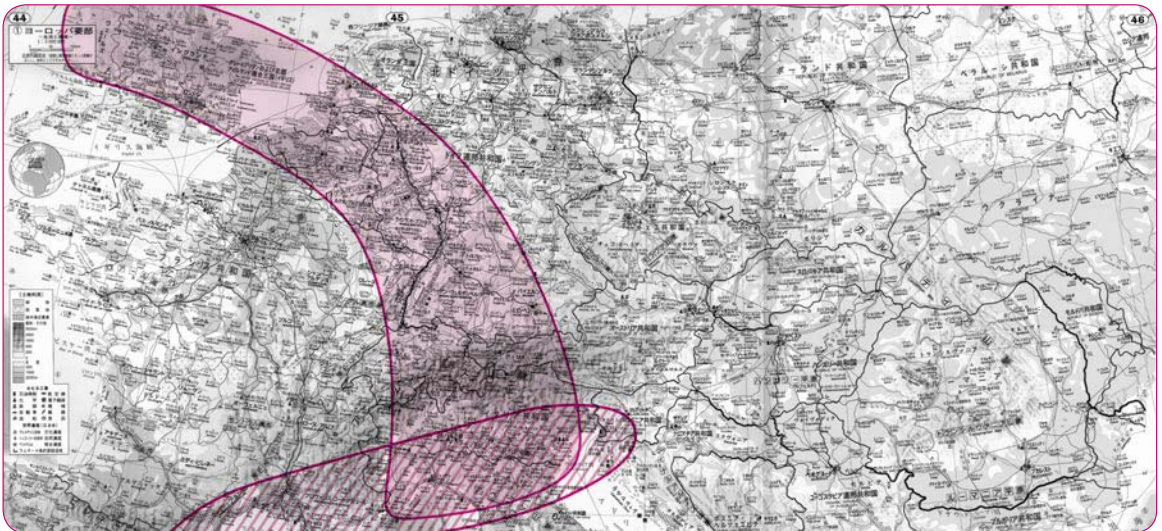


図1 帝国書院『新詳高等地図 (最新版)』p.44～46

2. EUの中心地域

今日のEUの基礎は、ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体(ECSC)(1952年)である。この原加盟国であるフランス・旧西ドイツ・イタリア北部およびベネルクス3国は、ヨーロッパ中央部に位置しており、この地域はEUの中心地域である。2002年には、通貨統合という大きな経済的統合を実現させた。04年にはポーランド・ハンガリー・チェコ・スロバキアなど、かつての社会主義国であった国々が新たにEUに加盟し、ヨーロッパの統合が東方への拡大という形で大きく前進した。ヨーロッパは、カトリックとプロテスタントの接点でもあり、またさまざまな言語がみられる多様性にみちた地域でもある。それゆえヨーロッパは、文化的多様性

のなかで新たな統合をめざしている地域ともいえる。

3. 交通の発達

「ヨーロッパ要部」の図では内陸水路や運河が発達している様子が確認できる。ライン川やドナウ川などの国際河川は、いくつもの運河により互いに結びついている。北海から黒海までヨーロッパを縦断する一大水路であるメイン・ドナウ運河、ドイツ北部を横断するミッテルラント運河、地中海と北海を結ぶローヌ・ライン運河など、実際に生徒にたどって確認させることが重要である。運河や主要河川は物資輸送だけでなく、文化交流の役割をも果たしヨーロッパの統一に大きく寄与している。

ヨーロッパは、世界でも鉄道網の密集した地域でもある。高速鉄道はフランス・スペイン・ドイツ・イタリアなどにみられ、フランスではTGV、ドイツではICEとよばれている。ドーヴァー海峡を結ぶユーロトンネルは、日本の資金と技術により開通(94年)し、パリ・ロンドン間が、特急列車ユーロスターにより3時間で結ばれるようになった。この地域では自動車交通も発達している。とくに高速自動車道路はドイツ・イタリア・フランスなどで整備されている。EUの統合が進展するにつれ、それまで交通の発達を妨げてきた国境の往来が容易になり、国際的な鉄道網や高速道路網はその価値が向上している。

4. 変化する工業地域

『新詳高等地図』における「ヨーロッパ要部」は、アメリカ合衆国東部および日本とならぶ世界の工業の中心地域の一つである。とくに、イギリス南東部からベネルクス3国、ルール工業地帯、ライン川流域を経てイタリア北部にかけては、EU工業の骨格となっており「青いバナナ」とよばれている。この工業地域はEU統合の進展により結びつきがさらに強まり、EU経済の中心地域となっている。また新しい工業地域としては、スペインのバルセロナからフランス南部を経てイタリア北部にいたる地中海沿岸地域がある。ここはエレクトロニクス産業・航空機など先端技術産業が集積し、「ヨーロッパのサンベルト」ともよばれている。ポーランド・ハンガリー・スロバキアなどの中・東欧諸国においては、市場経済への移行とEU加盟により、西欧企業の動きが活発化し、新たな欧州の工業の一大拠点となりつつある。

5. ドイツの統合

こうしたヨーロッパ全体のイメージをもったうえで、改めて地図上でドイツを確認することで、さらに国と地域のかかわりという視点で学習を深めることができる。

ドイツは『新詳高等地図』「ヨーロッパ要部」のほぼ中央部に位置し、9つもの国と国境を接して

いる。これはこの国の複雑な歴史を物語る。第二次世界大戦後、ドイツは自由主義陣営のドイツ連邦共和国と社会主義陣営のドイツ民主共和国に分かれ独立し(49年)、その後40年間、冷戦の象徴として鋭く対立した。ベルリンも東西に分けられ、61年には東ドイツ側により「ベルリンの壁」が構築された(図2)。80年代後半からの東ドイツ経済の深刻な行き詰まりとペレストロイカによる改革と民主化の波に抗しきれず、89年に「ベルリンの壁」が開放され、翌年、ドイツは西が東を吸収合併する形で一挙に統合された。

統一後のドイツ最大の課題は、東西両地域の経済および社会統合であり、とりわけ生活水準の平準化がめざされた。政府の巨額の補助金にもかかわらず、旧東ドイツでは、多くの企業が倒産し、大量の失業者がうまれた。若年者や技術者の多くが西側へ移住している。旧東ドイツの問題は、その視野を広げるとEU域内における地域格差の問題であるともいえる。



図2 帝国書院『新詳高等地図(最新版)』p.50

6. おわりに

北米自由貿易協定(NAFTA)や東南アジア諸国連合(ASEAN)など国家間の地域統合は、今や世界的な趨勢である。EUによるヨーロッパの統合は、その先駆的な意味をもち、その要因や背景は国家間の地域統合理解へのてがかりとなり、示唆に富む学習内容である。その意味で『新詳高等地図』の「ヨーロッパ要部」のように地域の結びつきが詳細かつ広範囲に見られる図は便利であり、この学習後の生徒による探究テーマや学習内容の設定に事欠かない地域といえる。